

ユーザーズ・マニュアル

_MINILAB 3

ARTURIA

_The sound explorers

スペシャル・サンクス

ディレクション

Frédéric Brun

Kevin Molcard

開発

Nicolas Dubois (lead)

Aurore Baud

Jérôme Blanc

Valentin Foare

Florian Rameau (lead)

Loïc Baum

Yannick Dannel

Thibault Senac

Farès Mezdour (lead)

Timothée Béhéty

Antonio Eiras

品質保証

Thomas Barbier

Emilie Jacuszin

Aurélien Mortha

マニュアル

Sven Bornemark (writer)

Jimmy Michon

Minoru Koike

Holger Steinbrink

Stephen Fortner (writer)

Gala Khalife

Charlotte Métais

© ARTURIA SA – 2022 – All rights reserved.

26 avenue Jean Kuntzmann

38330 Montbonnot-Saint-Martin

FRANCE

www.arturia.com

本マニュアルに記載の情報は本製品の発売時点の仕様のもので、本マニュアルの情報は予告なく変更される場合があります、それについて Arturia は何ら責任を負いません。

本製品の仕様は、改良等のため予告なく変更することがあります。

本マニュアルに記載されているソフトウェアは、使用許諾契約書または秘密保持契約書に基づき提供されています。ソフトウェアの使用許諾契約には、その合法的な使用に関する条件が規定されています。

本製品を購入されたお客様の個人的な使用以外の目的で本マニュアルの一部、または全部を Arturia S.A. の明確な書面による許可なく再配布することはできません。

本マニュアルに記載の製品名、ロゴ、企業名はそれぞれの所有者に帰属する商標または登録商標です。

Product version: 1.0.5

Revision date: 10 November 2022

Arturia MiniLab 3 をお買い上げいただきありがとうございます！

本マニュアルでは、DAW ソフトウェアやプラグインの操作に便利なフル装備の MIDI コントローラーである Arturia **MiniLab 3** の機能や操作方法をご紹介します。スタジオでもツアー先でも、あるいはホームスタジオでも、MiniLab 3 が欠かせないツールとなることを確信しております。

できるだけ早めに製品登録をお願いいたします！ 本機の底部にシリアルナンバーとアンロックコードが記載されたステッカーが貼ってあります。これらの情報は本機を Arturia ウェブサイトで製品登録をする際に必要となります。本製品に同梱の製品登録カードは大切に保管してください。

本機の製品登録をされますと、次のようなメリットがあります：

- MiniLab 3 オーナー限定の特別オファーを受けられます。製品登録をされたオーナーの方は、以下のバンドルソフトウェアが入手できます：
 - すぐ使えるインストゥルメントやサウンドを内蔵した Arturia Analog Lab Intro
 - 以下のソフトウェアの最新版：Ableton Live Lite、Native Instruments The Gentleman (アップライトピアノ)、UVI Model D (グランドピアノ)、Loopcloud と Melodics のサブスクリプション

MIDI Control Center

MIDI Control Center は、[Arturia Downloads & Manuals](#) から無償でダウンロードできるアプリケーションです。MiniLab 3 のファームウェアアップデートや各種設定を変更するのにこのアプリケーションが必要となりますので、ぜひインストールしてください。

Arturia Software Center (ASC)

ASC のインストールがまだの方は、こちらのウェブページから入手できます：[Arturia Downloads & Manuals](#)

Arturia Software Center はページのトップにあります。お使いのシステム (macOS または Windows) に合ったインストーラーをダウンロードしてください。ASC はお持ちの Arturia アカウントのリモートクライアントで、お持ちの Arturia ソフトウェアのすべてのライセンスのダウンロードやアップデートなどを管理をワンストップで行えるアプリケーションです。

ASC のインストール後に次の作業をします：

- Arturia Software Center (ASC) を起動します
- お持ちの Arturia アカウントでログインします
- ASC の画面を下にスクロールして My Product セクションを表示させます
- Activate ボタン (この場合は Analog Lab Intro) をクリックし、表示される指示に従って作業を進めます

これで準備完了です！

MiniLab 3 は使いやすく設計されていますので、すぐにお使いになるかも知れませんが、たとえばあなたが経験豊富なヘビーユーザーだったとしても、本機の性能をフルに発揮できる便利な使いこなしのテクニックの数々を記載している本マニュアルをぜひお読みください。また、本機の製品登録時には、操作方法を思い出すのに便利な MiniLab 3 チートシートもダウンロードできますのでぜひご利用ください。

MiniLab 3 が強力なツールとなることを確信しておりますし、そのポテンシャルを最大限にご活用いただければと思います。

楽しい音楽制作を！

The Arturia team

使用上のご注意

重要：

本機とそのソフトウェアは、アンプやヘッドフォン、スピーカーで使用された際に、聴覚障害を起こすほどの大音量に設定できる場合があります。そのような大音量や不快に感じられるほどの音量で本機を長時間使用しないでください。難聴などの聴力低下や耳鳴りなどが生じた場合は、直ちに医師の診断を受けてください。

注意：

知識の不足による誤った操作から発生する問題に対するサポートは保証の対象外となり、料金が発生します。まずこのマニュアルを熟読し、販売店とご相談の上、サポートを依頼されることをお勧めします。

注意事項としては以下のものを含まますが、これらに限定されるものではありません：

1. 取扱説明書をよく読んで、理解してください。
2. 本機に表示されている指示に従ってください。
3. 本機のお手入れの際は、まず電源やUSB等全てのケーブルを外してください。また、清掃の際は、乾いた柔らかい布を使用してください。ガソリン、アルコール、アセトン、テレピン油その他有機溶剤は使用しないでください。液体クリーナー、スプレー洗剤、濡れ布巾なども使用しないでください。
4. 本機を浴室やキッチンシンク、水泳プールまたはそれらに準じた水の近くや多湿な場所で使用しないでください。
5. 本機を落下の危険性がある不安定な場所に設置しないでください。
6. 本機の上に重量物を置かないでください。また、本機の開口部や通気孔等を塞がないでください。これらは、過熱から本機を守るための空気の循環用のものです。また、本機を発熱体の近くや、風通しの悪い場所に設置しないでください。
7. 本機を開けたり異物を入れないでください。火災や感電の原因になることがあります。
8. いかなる液体も本機にこぼさないでください。
9. 修理の際は正規サービスセンターにご依頼ください。お客様ご自身で蓋やカバーを開けると保証の対象外となり、正規の手順に依らない組み立てを行うと感電や故障の原因になる場合があります。
10. 雷の発生時には本機を使用しないでください。距離が離れていても感電の恐れがあります。
11. 本機を直射日光に当てないでください。
12. ガス漏れが発生している場所付近で本機を使用しないでください。
13. Arturia は本製品の不適当な使用方法に起因する故障、破損、データ損失に責任を負いません。

もくじ

1. MiniLab 3 へようこそ	2
1.1. MiniLab 3 とは?	2
1.2. MiniLab 3 の主な特長	3
2. インストールする	4
3. ハードウェアの概要	5
3.1. フロントパネル	5
3.2. リアパネル	6
3.3. 設定値などの表示	6
4. MiniLab 3 のオペレーション	7
4.1. Shift Functions - シフト機能	7
4.2. Octave Up/Down and Transpose - オクターブの上下とトランスポーズ	8
4.3. Touch Strips - タッチストリップ	8
4.4. Pads - パッド	9
4.4.1. もう1つの機能	9
4.4.2. パッドとプログラムの選択	9
4.5. Arpeggiator - アルペジエーター	10
4.5.1. アルペジエーターのオン/オフ	10
4.5.2. アルペジエーターモードに入る/から抜ける	11
4.5.3. アルペジエーターのエディット - メインエンコーダー法	11
4.5.4. アルペジエーターのエディット - クイックアクセス法	12
4.5.5. アルペジエーターのパラメーター	12
4.6. Tap Tempo - タップテンポ	15
4.7. Hold Mode - ホールドモード	16
4.8. Chord Mode - コードモード	16
4.8.1. コードの作成	16
4.8.2. アルペジエーターとコードモード、ホールドモードを併用する	17
4.9. ヴェガスモード	17
4.10. ファクトリーリセット	17
5. MiniLab 3 and Analog Lab	18
5.1. 重要なポイント - すべては流動的なのです	18
5.2. オーディオと MIDI の設定	18
5.2.1. Analog Lab MIDI Settings	19
5.3. プリセットのブラウジング	20
5.3.1. タイプ別にブラウジング	20
5.4. ノブとフェーダー	21
5.4.1. ノブ 1-4	22
5.4.2. ノブ 5-8	22
5.4.3. フェーダー	23
5.4.4. パッド	23
6. DAW Control	24
6.1. Custom Controlled DAWs - 対応 DAW	24
6.1.1. トランスポートコントロール	25
6.2. Mackie Control Universal で DAW をコントロールする	25
6.3. Analog Lab モード	26
7. 規制関連情報	27
8. ソフトウェア・ライセンス契約	28

1. MINILAB 3 へようこそ

1.1. MiniLab 3 とは？



MiniLab 3はコンパクトなMIDIキーボードコントローラーです。見た目は小さいのですが侮れません-より大きくて高価なキーボードコントローラーでよく見られる機能を数多く内蔵しています。ペロシティ対応の25鍵スリムキー鍵盤とペロシティ とアフタータッチ対応の8つのバックライト付きパフォーマンスパッドを装備しています。

また、先代の MiniLab MkII からユーザーインターフェイスを見直し、さらに拡張しました。8つのエンコーダーノブに4つのフェーダーが加わり、選択ボタンを兼ねたクリッカブルのメインエンコーダーと高輝度 OLED ディスプレイも新しく装備されました。

デフォルト状態では、MiniLab 3はArturiaのAnalog Labソフトウェアに完全対応しており、マウスを使わずにプリセットの選択やパラメーターのエディットが行えます。

MiniLab 3はまた、Ableton Live、Logic Pro、Reason、Bitwig Studio、FL Studioといった主要DAWを自動で認識してコントロールすることができます (Steinberg Cubase など一部の DAW には Mackie Control Universal (MCU) プロトコル経由で対応しています)。MiniLab 3のパッドでDAWのトランスポートを、ノブでプラグインパラメーターを、フェーダーでトラックやセンドのボリュームやパンをコントロールすることができます。


さらにMiniLab 3はイノベティブなピッチ/モジュレーションタッチストリップやアルペジエーターを内蔵し、シンセサイザーらしい演奏も十分に行えます。

Analog Lab Introに加え、MiniLab 3には革新的なクリップベースの音楽制作とパフォーマンスができるDAWの入門版ながらも強力なAbleton Live Liteのライセンスも付属しています。MiniLab 3のパッドでクリップのトリガリングやノブでプラグインの調整など様々なコントロールができます。

その他にもNative InstrumentsのThe Gentleman (アップライトピアノを精緻にサンプリングしたインストゥルメント)、UVI Model D (ドイツ製コンサートグランドピアノ)のほか、LoopcloudとMelodicsのサブスクリプションも付属しています。

それだけでなく、ArturiaのフリーウェアMIDI Control CenterでMiniLab 3の各種フィジカルコントロール(ノブ等)とパラメーターのマッピングを行い、自分だけのカスタム設定を作成することができ、その設定セットを保存してMiniLab 3本体から呼び出して使用することができます。

例えば、別の MIDI チャンネルでオリジナルスケールのベースをパッドで演奏しつつ、キーボードでソロやコードを演奏することも簡単に行なえます！

 ! Arturia ウェブサイトからダウンロードできる **MIDI Control Center** の詳細につきましては、MIDI Control Center のマニュアルをご覧ください。

移動の多いミュージシャンや、狭い DJ ブースで演奏しなくてはならないラップトップベースのパフォーマー、デスクトップのスペースが限られたホームスタジオクリエイター、あるいは私達も想像し得ないサウンドエクスプローラーの多くの方々にとって、コンパクトかつ最強の MIDI コントローラー、それが MiniLab 3 なのです。

1.2. MiniLab 3 の主な特長

- ベロシティ対応の25鍵スリムキー鍵盤を装備。
- ベロシティ/プレッシャー対応のRGBパッドを8個装備。
- 2つのパッドバンクで合計16個分のパッドとして使用可能。
- プリセットのブラウズや設定の変更などに便利なクリックパルメインエンコーダー。
- 光量の多い明るい環境下でも見やすいハイコントラスト OLED ディスプレイを装備。
- 8つのエンコーダーノブを装備。
- 4つのフェーダーを装備。
- ピッチベンドやモジュレーションに便利なロープロファイルのタッチストリップ。
- 数多くの機能にアクセスできる Shift ボタン。
- ハンズフリー (足もフリー) なサステインができる Hold ボタン。
- オクターブと半音単位でのトランスポーズが可能。
- クラシックなシンセスタイルのフル装備のアルペジエーターを内蔵。
- コードをメモリーしてワンフィンガーで演奏できる Chord モードを内蔵。
- USB-C バスパワーに対応し、非常に効率的 ; iPad からの給電も可能。
- MIDI 信号は USB-C ポートからも5ピン MIDI アウトからも送信可能。
- サステインペダルやフットスイッチ、エクスペッションペダルを接続できる 6.3mm TRS インプット端子を装備。
- 豊富な付属ソフトウェア : Arturia Analog Lab Intro、Ableton Live Lite、Native Instruments The Gentleman、UVI Model D、Loopcloud と Melodics のサブスクリプション。
- USB-C → USB-A ケーブルを付属。

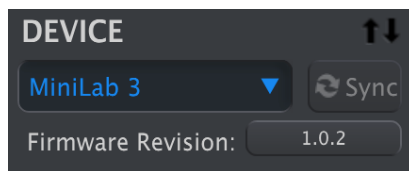
2. インストールする

MiniLab 3 を購入し、製品登録を済ませたあとに最初にするのは、ファームウェアのアップデートです。Arturia では、新機能の追加や動作向上などのファームウェアアップデートを随時行っています。

アップデートをするには、事前に MIDI Control Center (MCC) をダウンロードし、インストールする必要があります。MCC は、Arturia ハードウェア製品のために設計された強力なソフトウェアで、Arturia ウェブサイトの [Downloads & Manuals ページ](#) からダウンロードできます。

MCC をインストールしましたら、以下の手順で MiniLab 3 のファームウェアをアップデートします：

1. MiniLab 3 の製品ページの 'Resources' タブ、または [Downloads and Manuals](#) ページ (MiniLab 3 で検索してください) から最新のファームウェアをダウンロードします。
2. MIDI Control Center を起動します。
3. MIDI Control Center の Device のところで MiniLab 3 が選択されていることをご確認ください。ファームウェアのバージョンが表示されているボックス部分をクリックします。



4. 表示されるダイアログボックスにある "Upgrade" をクリックし、ファームウェアファイルを保存するコンピュータ内の場所を指定します。このとき、4つのボタンがブルーに順番に点灯します。

5. 画面に表示される支持に従って作業を進めます。MiniLab 3 へのファームウェアのロードが完了すると、MiniLab 3 が再起動して使用できる状態になります。

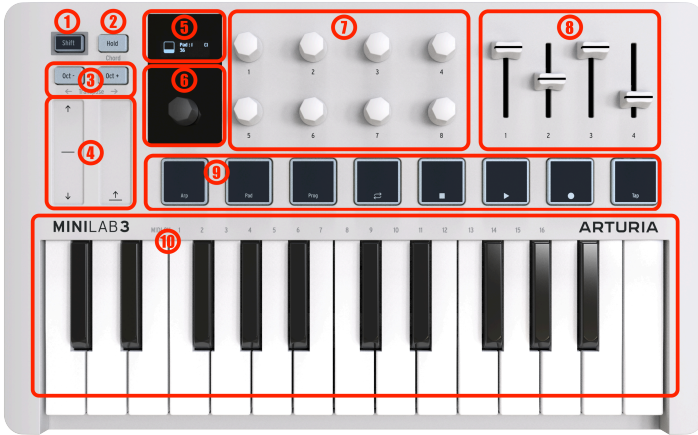
これで MiniLab 3 を使って Arturia [Analog Lab V \[p.18\]](#) など色々なバーチャルインストゥルメントをコントロールすることができます。

MiniLab 3 での MCC の使い方などの詳細につきましては、Arturia ウェブサイトの [Downloads & Manuals ページ](#) の MiniLab 3 セクションにある専用マニュアルをご覧ください。

3. ハードウェアの概要

3.1. フロントパネル

MiniLab 3 のフロントパネルにあるコントロール類は以下の通りです。



#	名称	内容
1.	Shift ボタン	シフト機能 [p.7] にアクセスできます。
2.	Hold ボタン	オンにするとキーボード (パッドには対応していません) で弾いた音が長く伸びます。
3.	Octave ボタン [p.8]	キーボードで発音する音域をオクターブ単位で上下に移動します。
4.	タッチストリップ [p.8]	ピッチベントやモジュレーション "ホイール" として使用できるロープロファイルのコントローラーです。
5.	OLED ディスプレイ	パラメーター名やその数値、MiniLab 3 の各種機能の状態などを表示します。
6.	メインエンコーダー	Analog Lab [p.18] のプリセット選択や、 DAW [p.24] の機能の実行などを行います。このエンコーダーは、クリックパブルで選択ボタンとしても機能します。
7.	エンドレスエンコーダーノブ	インストゥルメントのパラメーターなど、ソフトウェアのパラメーター調整に使用します。
8.	フェーダー	インストゥルメントのパラメーターなど、ソフトウェアのパラメーター調整に使用します。
9.	パッド [p.9]	フィンガードラムや MIDI ノートの発音、MiniLab 3 の各種機能へのアクセス、DAW のトランスポートコントロールなどが行なえます。ペロシティとプレッシャーに対応しています。
10.	MIDI キーボード	25鍵のペロシティ対応のスリムキー鍵盤です。MIDI Control Center でペロシティカーブを調整できません。

3.2. リアパネル

MiniLab 3 のリアパネルの接続端子は、次の通りです。



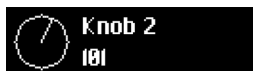
#	名称	内容
1.	ケンジントンロック	ラップトップ用の一般的なケンジントンロックに対応しており、盗難防止に利用できます。
2.	MIDI アウト	5ピン DIN コネクターの MIDI アウトでハードウェアの MIDI 音源モジュールなどを接続してコントロールできます。この端子は MIDI スルーとしても使用できます。
3.	Control Pedal インプット	6.3mm TRS 仕様の端子です。サステインペダルやフットスイッチ、コンティニュアスコントローラー (エクスペッションペダル) を接続できます。
4.	USB-C ポート	コンピュータや外部機器と接続して MiniLab 3 本体への電源供給やデータ通信を行います。

! ベロシティ対応：MiniLab 3 の MIDI キーボードとパッドは強く弾く (叩く) と音量が大きくなるというように、操作する強度に反応します。

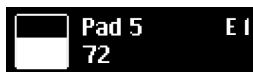
! プレッシュャー対応：パッドを押してからさらに押し込むと、プレッシュャーデータを送信してフィルターやボリューム変化など様々なモジュレーションを行えます。別名 **アフタータッチ** とも言われています。

3.3. 設定値などの表示

デフォルト状態では、コントロール類に触れるとそのグラフィックをメインの OLED ディスプレイに表示し、コントロール類を操作するとその設定値も表示します。例えば、ノブを操作すると下図のように表示します：



パッドを叩くと、最初にそのときのベロシティ値を表示します。その後パッドを押し込むと、プレッシュャーの値を表示します。



4. MINILAB 3 のオペレーション

4.1. Shift Functions - シフト機能

Shift ボタンを押しながら特定のコントロール類を操作したり、パッドのいずれかを押すと、それ本来の機能とは別の機能を実行します。以下の表は、そうしたシフト機能をまとめたものです。各シフト機能の詳細は、それぞれのセクションでご紹介します。

コントロール	シフト機能
Hold ボタン	コードモード [p.16] のオン/オフを切り替えます。Shift ボタンを押しながら Hold ボタンを長押しすると、コード作成モードに入ります。
Octave Shift ボタン	キーボードを半音単位で上下にトランスポーズします。
メインエンコーダー	使用するソフトウェアによって機能が変わります。
パッド 1	アルベジエイター [p.10] のオン/オフを切り替えます。Shift ボタンを押しながらパッドを長押しすると、アルベジエディットモードに入ります。
パッド 2	バンク A と B を切り替えます。
パッド 3	MiniLab 3 のモードを Arturia インストゥルメントコントロールモードと DAW コントロール [p.24] モードのいずれかに切り替えます。ここから、作成したユーザープログラムを切り替えることもできます。
パッド 4 - 7	DAW のトランスポートコントロール (ループモードのオン/オフ、停止、再生、録音) が行えます。
パッド 8	タップテンポ [p.15] の入力ができます。
キーボード	最低オクターブの F からその上のオクターブの G# で MIDI 送信チャンネルの 1 - 16 を選択できます。

4.2. Octave Up/Down and Transpose - オクターブの上下とトランスポーズ



キーボードで発音する音域をオクターブ単位で移動させるには、**Oct +** か **Oct -** ボタンを押します。最大で4オクターブ下、4オクターブ上まで移動できます。オクターブ単位で移動 (トランスポーズ) しているときは、ボタンが白く点灯します。

キーボードを半音単位でトランスポーズさせるには、**Shift** ボタンを押しながら Octave ボタンをどちらかを押します。半音単位でトランスポーズしているときは、ボタンがブルーに点灯します。

オクターブ単位と半音単位のトランスポーズを両方とも使用しているときは、ボタンが白とブルーに点滅します。

どちらもトランスポーズでも、その操作が OLED ディスプレイに表示されます。なお、トランスポーズはキーボードにのみ適用され、パッドには適用されません。パッドからは MIDI ノートナンバーを送信できますが、そのノートナンバーは MIDI Control Center で設定できます。



! Oct + と Oct - ボタンを同時に押すと、オクターブシフトやトランスポーズがリセットされます。

4.3. Touch Strips - タッチストリップ



左側のピッチベンドストリップは、スプリング式のピッチベンドホイールと同様に機能します。指をストリップから放すと、自動的にセンター位置に戻ります。ベンドレンジ (ピッチベンドの幅) は MIDI Control Center で設定できます (別マニュアルをご覧ください)。MiniLab 3 やその他の Arturia コントローラーのほぼすべてのフィジカルコントロール類の機能は、MIDI Control Center で設定できます。

右側のモジュレーションストリップに触れて上にスライドすると、モジュレーションが深くなっていきます。シンセのモジュレーションホイールと同様、指を放してもその位置に留まり、ゼロに戻すには手で戻す必要があります。

デフォルト設定では、モジュレーションストリップからは MIDI CC 1 (モジュレーションのコントロールナンバー) を送信しますが、MIDI Control Center で変更することもできます。

この2つのストリップでの操作状況は、OLED ディスプレイに反映されます。

4.4. Pads - パッド



ベロシティ/プレッシャー対応の MiniLab 3 の8つのパッドには、色々な機能があります。デフォルト状態では、MIDI ノートをチャンネル10から送信します。チャンネル10は主に、DAW やマルチティンパーンセサイザーのドラムに使用しています。

4.4.1. もう一つの機能

Shift ボタンを押しながらパッドを押すと別の機能が動作します。そのときの最も一般的な機能は、戦術の **シフト機能** [p.7]の表でご紹介しています。例えば、Shift + パッド 1 でアルペジエーターのオン/オフ切り替えなど、色々な機能があります。

Sfhit ボタンを押すと、パッド 1-3 がブルーに点灯します。パッド 4-7 は DAW のトランスポート機能に応じて点灯します：ループモードはアンバー、停止は白、再生はグリーン、録音は赤に点灯します。



Shift ボタンを押しながらパッド 2 を押すとバンク A と B を切り替えます。バンク B では別の MIDI ノートナンバーをチャンネル10で送信します。デフォルト設定のノートナンバーは以下の表の通りです (MIDI Control Center で変更できます)：

パッドバンク	1	2	3	4	5	6	7	8
A	36 (C1)	37 (C#1)	38 (D1)	39 (D#1)	40 (E1)	41 (F1)	42 (F#1)	43 (G1)
B	44 (G#1)	45 (A1)	46 (A#1)	47 (B1)	48 (C2)	49 (C#2)	50 (D2)	51 (D#2)

4.4.2. パッドとプログラムの選択

MiniLab 3 には動作モードが複数あります。ARTURIA モードと DAW モードのほかに、ご自身で作成できるユーザープログラムを5つメモリーできます。**Shift** ボタンを押しながらパッド 3 を押して動作モードを切り替えます。

- **ARTURIA モード**：Analog Lab が開いているときに自動的に認識します。MiniLab 3 のすべてのコントロール類が Analog Lab に自動的にマッピングされます。
- **DAW モード**：DAW (デジタルオーディオワークステーション) ソフトウェアを操作するとき使用します。対応 DAW をお使いの場合はコントロール類が自動的にマッピングされます。それ以外の DAW をお使いの場合は、トランスポートコントロールのみが動作します。
- **ユーザープリセット**：MiniLab 3 は、最大5個のユーザープログラム (MIDI Control Center で作成したカスタムマッピングのセット) をメモリーできます。各ユーザープリセットのオン/オフは、MIDI Control Center の Device Settings (デバイスセッティング) で切り替えられます。詳細はチャプター6でご紹介しますが、ここでは **Shift** ボタンを押しながらパッド 3 を押すと、ARTURIA モード、DAW モード、オンになっている ユーザープリセットが順番に切り替わるということを覚えておいてください。

4.5. Arpeggiator - アルペジエーター

MiniLab 3 には、クラシックなシンセに搭載されていたような、楽しくてフレキシブルなアルペジエーターを内蔵しており、押さえたコードを基に色々なパターンを演奏することができます。

アルペジエーターは多くのシンセサイザーに搭載されており、キーボードで押さえたコードをアルペジオに変換する機能です。アルペジエーターには一般的に、スピードやレンジ (オクターブ)、モード (アップやダウン、アップ/ダウンなどのパターン) といったパラメーターがあり、ホールド (キーボードから手を放しても演奏がそのまま続く) 機能もあります。

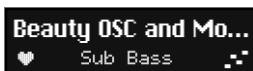
アルペジエーターによる演奏情報は、MIDI データとして USB-C ポートや5ピンの MIDI アウトから送信されます (どちらの端子から受信するかはホストソフトウェア (DAW) の MIDI 設定で選択します)。

4.5.1. アルペジエーターのオン/オフ

アルペジエーターのオン/オフを切り替えるには、**Shift** ボタンを押しながらパッド 1 を押します。このとき、MiniLab 3 のディスプレイには下図のような表示が短時間表示されます：



アルペジエーターがオンになると、ディスプレイ (下図の例では Analog Lab のプリセット名が表示されています) の右下に4つのドットの小さなアイコンが表示されます：



! アルペジエーターはキーボードを弾いたときのみ動作します。パッドからは動作しません。



! アルペジエーターのオン/オフをチェックするには、Shift ボタンを押します。このとき、Arp パッド (パッド 1) が明るいブルーに点灯したときはオンです。暗いブルーに点灯したときはオフです。



! アルペジエーターがオンのときでも、パッドで音をトリガーさせることができます。



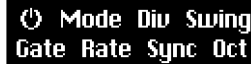
! アルペジエーターのエディットモードに入っているときは、アルペジエーターのスタート/ストップをエンコーダーノブ 1 またはメインエンコーダーでコントロールできます。ディスプレイではその操作に応じてオフからオン、またはその逆にそのときの状態を表示します。

4.5.2. アルペジオエディットモードに入る/から抜ける

Shift ボタンを押しながら Arp パッドを 1秒間長押しすると、アルペジオエディットモードに入ります。

Shift ボタンを押しながら Arp パッドを 短く 押しすと、アルペジオエディットモードから抜けます。

アルペジオエディットモードに入ると、ディスプレイに以下の内容が常に表示されます：



Mode Div Swing
Gate Rate Sync Oct

! アルペジエーターブレイモード (アルペジエーター自体のオン/オフ) と アルペジオエディットモード (アルペジエーターの動作設定モード) とは多少独立した関係にあります。例えば、アルペジオエディットモードに入った時点でアルペジエーターが自動的にスタートするわけではありませんし、アルペジオエディットモードから抜けただけではアルペジエーターがオフになるわけでもありません。

4.5.3. アルペジエーターのエディット - メインエンコーダー法

2つのモード、つまり **アルペジエーターブレイ** と **アルペジオエディット** が別物であることは、前ページで触れました。それを踏まえることで、アルペジエーターが演奏するパターンのエディットを始めることができます。

Shift ボタンを押しながら **パッド 1** を押すとアルペジエーターがオンになります。次に、**Shift** ボタンを押しながらパッド 1 を1秒間長押しすると、アルペジオエディットモードに入ります。

このとき、ディスプレイの表示は下図のようになります：

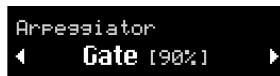
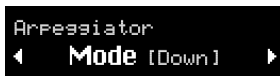


Mode Div Swing
Gate Rate Sync Oct

アルペジエーターのパラメーターは次の通りです：

- **On/Off**：アルペジエーターのオン/オフを切り替えます。
- **Mode**：アルペジエーターが音を発音する順番 (パターン) を選択します。
- **Div**：マスターテンポに対する拍数を設定します。
- **Swing**：シャッフル感 (はねた感じのリズム) を調節します。
- **Gate**：アルペジオ化された各音の長さを調節します。
- **Rate**：同期設定が "Internal" のときのアルペジエーターのスピードを BPM 単位で設定します。
- **Sync**：アルペジエーターのマスターテンポのソースを選択します。MiniLab 3 の内部クロック (Int) またはソフトウェアやハードウェアからの外部クロック (Ext) のどちらかを選択します。
- **Oct**：アルペジオが展開するオクターブをゼロから3オクターブの範囲で設定します。

各パラメーターのエディットは、メインエンコーダーで行います。メインエンコーダーを回すと下図のようにパラメーターが順番に表示されます：



エディットしたいパラメーターが出ましたら、メインエンコーダーをクリックしてその値を変更します：



メインエンコーダーを回して値を調整し、クリックするとそれが確定して再びパラメーター選択メニュー階層に戻ります。

4.5.4. アルペジエーターのエディット - クイックアクセス法

上述のように、メインエンコーダーで各パラメーターをたどっていく方法もありますが、もっと早くエディットする方法もあります。**Shift** ボタンを押しながら **パッド 1** を押してアルペジオエディットモードに入っている状態で、8つのエンコーダーノブでアルペジエーターの各パラメーターにダイレクトにアクセスできます。

ディスプレイの表示とノブによる便利な2行レイアウトでエディットが行なえます。

ノブ	アルペジエーターの設定
1	On/Off
2	Mode
3	Division
4	Swing
5	Gate
6	Rate
7	Sync
8	Octave Range

どのノブでも回した時点ですぐにそのパラメーターの設定を変更できます。その操作に反応して、ディスプレイには変更した設定値が短時間表示され、その後メニュー表示に戻ります。この方法なら、音を出しながらノブを回して設定をすぐに変更できます。



！ノブを元のコントローラーに戻すには、アルペジオエディットモードから抜ける必要があります。

4.5.5. アルペジエーターのパラメーター

ここからはアルペジエーターの各パラメーターを詳しく見ていきます。

4.5.5.1. On/Off




このメニューでノブ 1 を回すことは、**Shift + パッド 1** の操作を同じことで、単純にアルペジエーターのオン/オフを切り替えます。

4.5.5.2. Mode



アルペジオの各音を演奏する順番 (パターン) を、以下のオプションから選択します：


- **Up**：押さえたコードの最低音から最高音に向かって演奏します (上昇)。
- **Down**：押さえたコードの最高音から最低音に向かって演奏します (下降)。
- **Inc**：「インクルーシブ」の略で、上昇と下降を繰り返し、最高音と最低音を連打します。
- **Exc**：「エクスクルーシブ」の略で、上昇と下降を繰り返し、最高音と最低音を連打しません。
- **Rand**：押さえたコードの各音をランダムに演奏します。
- **Order**：キーボードでコードの各音を押さえた順番に演奏します。

 Order はキーボードでコードの各音を押さえた順番で演奏しますので、最も柔軟なパターンと言えます。また、Rand はデュランデュランの "Rio" のような80年代のシンセポップのヒット曲でよく使われたパターンです。

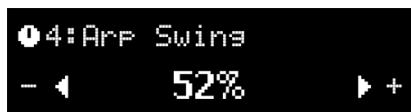
4.5.5.3. Division



Division パラメーターでは、アルペジエーターのマスターテンポ (内部クロック/外部クロック) に対して、アルペジオの各音が発音する拍数を設定します。設定値には 1/4 (4分音符)、1/8 (8分音符)、1/16 (16分音符)、1/32 (32分音符) があり、3連符にも対応しています。設定値の後ろに "T" が表示されているとき (例: "1/8T") は、3連符のタイミングになります。

 設定値が 1/8 の場合、アルペジオの各音は8分音符になります。1/8T のときは8分音符の3連符になります。これは後述の Swing (スウィング) とは異なるものですが、Swing の値を 67% にセットすると8分音符でも3連符の感じになります。

4.5.5.4. Swing



Swing (スウィング) は完全に均等なリズムではなく「少しはねた感じ」を出すパラメーターです。

例えば Division で 1/8 を選択し、Swing の設定を Off にすると、均等なリズムの8分音符を演奏します。Swing の設定値を上げていくと、偶数番目に発音する8分音符の発音タイミングがその分だけ遅くなっていきます。設定値を 67% にすると、いわゆる「スウィングした」感じになります。設定値が 55~64% の範囲では、ややスウィングした感じになり、楽曲によっては驚くほどグルーヴィに聴こえることがあります。

Swing は、次のすべての Division の設定値で有効です - 1/8、1/16、1/32

4.5.5.5. Gate



Gate (ゲートタイム) は、アルペジオの各音が発音する時間的な長さを設定するパラメーターで、すべての音に共通して適用されます。設定値が低めるときはスタッカートのように音が短くなり、設定値を高くすると音を長く発音します。

i ボリューム(アンプ)エンベロープのリリースが長い音色を使用しているときは、Gate の設定を低めにすることでアルペジオの各音がより明瞭に聴こえるようになります。

4.5.5.6. Rate



このパラメーターは、Sync が Int のときのみ有効で、アルペジエーターのスピードを BPM 単位で設定するものです。Sync が Ext にセットされているときにこのノブを回すと、"Ext Sync selected" というメッセージがディスプレイに表示されます。

アルペジエーターのスピードは、[タップテンポ \[p.15\]](#)でも設定できます。

4.5.5.7. Sync



設定値は Int (インターナル) と Ext (エクスターナル) の2つです：

- **Int**：アルペジエーターのスピードは、MiniLab 3 の内部クロックと Rate パラメーターの設定値 (前ページ参照) で決まります。
- **Ext**：アルペジエーターのスピードは、DAW などのホストアプリケーションで設定したテンポに従います。アルペジエーターがクロック信号を検出しないときは、MiniLab 3 のキーボードを弾いてもアルペジエーターが動作しません。また、DAW とアルペジエーターを同期させるときは、MiniLab 3 の USB ポート経由で DAW と接続されていることを確認し、DAW を再生させる必要があります。

i Int と Ext の使い分けは？ Analog Lab をスタンドアローンモードで使用するときは、MiniLab 3 の内部クロック (Int) を使用することでアルペジエーターのスピードを簡単に変更できます。5ピン MIDI 端子からハードウェアのシンセモジュールをコントロールするときも同様です。一方、Analog Lab やその他のインストゥルメントを DAW のプラグインとして使用するときは、MiniLab 3 を外部クロック (Ext) にセットすることで DAW のテンポに同期させることができます。

4.5.5.8. Octave



アルペジエーターは、ゼロから3オクターブ上までの範囲でアルペジオ演奏をさせることができます。ゼロの場合、キーボードで押さえたのと同じオクターブでのみアルペジオ演奏をし、1 にセットしたときはキーボードで押さえたのと同じオクターブで演奏したあとに1オクターブ上で演奏します。以降、設定値を上げるとアルペジオ演奏が展開するオクターブが1つずつ上へ増えていきます。

4.6. Tap Tempo - タップテンポ



タップテンポは、ビートを叩くことでアルペジエーターを演奏する MiniLab 3 の内部クロックを設定できる機能です。例えばドラマーがいるバンドや MIDI などと同期していないドラムマシンにテンポを合わせたいときに、耳で MiniLab 3 を同期させることができます。

Shift ボタンを押しながらパッド 8 を最低4回タップします。テンポはタップした直近4回の平均値になります。4回以上タップすることでより正確にテンポを合わせることができます。

4.7. Hold Mode - ホールドモード

Hold ボタンを押すと、最後に弾いた音が次の音を弾くまで、またはホールド機能をオフにするまで長く伸びます。

Hold ボタンを押すとホールモードがオンになります。このとき、Hold ボタンが点灯し、ディスプレイには **Hold mode ON** のメッセージが表示されます。Hold ボタンをもう一度押すとホールモードがオフになります。

ホールド機能は、サステインペダルとは異なります。サステインペダルを踏むと、それ以降に弾いた音はペダルを放すまで長く伸びます。ホールド機能では、そのときに同時に弾いた音のみが長く伸びます。例えば、ホールドモードをオンにしてからキーボードで「ド」と「ソ」を弾くと、その2つの音は次の音を弾くまでの間、長く伸びます。次の音を弾くと、それまでの「ド」と「ソ」の音は止まり、あとから弾いた音が長く伸びます。

4.8. Chord Mode - コードモード

MiniLab 3 には、設定したコードをメモリーしてそれをワンフィンガーでトランスポーズさせながら演奏できるコードモードがあります。

コードの情報は MIDI データとして USB-C ポートや 5ピンの MIDI アウトから送信されます。どちらの端子から受信するかは、ホストアプリケーションの MIDI 設定で選択できます。

コードモードのオン/オフは、**Shift** ボタンを押しながら **Hold** ボタンを押して切り替えます。コードモードに入ってキーボードで1音弾くと、前回メモリーしたコードを発音します。




Chord mode ON

4.8.1. コードの作成

Shift ボタンを押しながら **Hold** ボタンを押したままにします。次に MiniLab 3 のキーボードでコードを押さえると、そのコードをメモリーします。コードはすべての構成音を同時に押さえても、1音ずつ足りていくこともできます。このとき、ディスプレイには次のようなメッセージが表示されます：



Create a user chord



Creating chord...

コードの入力が終わりましたら、Shift と Hold ボタンを放します。このとき、自動的にコードモードに入ります。入力したコードがメモリーされ、その内容はコードモードから抜けて再度入っても、MiniLab 3 の電源を切っても残ります。上記の入力操作をすることで、新たなコードがメモリーされます。

i ! コードの最低音をルートノートにしたいとき (これが最も一般的だと思います) は、コードの入力時に他の構成音よりも先に最低音を弾いてください。

Shift ボタンを押しながら **Hold** ボタンを押すとコードモードから抜けます。

4.8.2. アルペジエーターとコードモード、ホールドモードを併用する

コードモードはアルペジエーターと併用できます。両方がオンのとき、アルペジエーターは **Mode** や **Division** などの各パラメーターの設定に従って、メモリーされているコードをアルペジオ演奏します。さらに、**Hold** をオンにする (コードモードがオンのときは **Hold** ボタンは白とブルーが交互に点滅します) と、キーボードを1音弾くだけでアルペジオ演奏のキーを変更でき、両手をそれ以外のコントロールに比べて非常に便利です！

i ! このようにホールド機能は色々使える便利な機能ですが、単独では例えばロングトーンで刻々と変化するようなパッド音色の演奏に便利な機能です。



Hold mode ON

4.9. ヴェガスモード

一定時間操作をしないと、MiniLab 3 はコンピュータのスクリーンセーバーに似た、いわゆる「ヴェガスモード」に入ります。このとき、OLED ディスプレイは暗くなり、パッドはレインボーカラーで順次点灯します。

その状態でキーボードを弾いたり、ノブなどのコントロール類を操作すると、MiniLab 3 は元の状態に戻ります。

i ! MIDI Control Center アプリケーションでは、ヴェガスモードに入るまでの時間設定や、ヴェガスモードの代わりにスリープモード (ディスプレイと LED が全消灯します) に切り替えることができます。デフォルト設定では、5分以上操作をしない状態が続くとヴェガスモードに入ります。

4.10. ファクトリーリセット

i ! 以下の操作を行うと、すべてのユーザープリセットや MiniLab 3 の各種設定を消去して、工場出荷時のデフォルト設定に戻します。この操作を行う前には、MIDI Control Center でバックアップを取っておくことをお勧めします。

MiniLab 3 を工場出荷時のデフォルト設定に戻す手順は、以下の通りです：

1. MiniLab 3 のリアパネルの USB-C ポートから USB ケーブルを取り外します。
2. **Oct -** と **Oct +** ボタンを押したままにします。
3. 上記のボタンを押したまま、USB-C ポートに USB ケーブルを再び接続し、パッドが点灯するまでボタンを押したままにします。ディスプレイに "Factory Reset" の表示が出てから MiniLab 3 の起動シーケンスが始まります。

5. MINILAB 3 AND ANALOG LAB

このチャプターでは主に MiniLab 3 と、音楽史を彩ってきた数々のキーボードやシンセサウンドのプリセットを内蔵した Analog Lab Intro や Analog Lab V との統合に関する各種機能をご紹介します。ここでは MiniLab 3 でコントロールできる Analog Lab パラメーターの基本についてご紹介しますが、これと同じことがフルバージョンの Analog Lab V にも適用できます。Analog Lab Intro の詳細や、Analog Lab のその他のバージョンにつきましては、それぞれのユーザーマニュアルをご参照ください。

！フルバージョンの Analog Lab V を入手するには、Analog Lab Intro からのアップグレードがお得で便利です。アップグレードはこちらで行なえます：www.arturia.com/analoglab-update

5.1. 重要なポイント – すべては流動的なのです

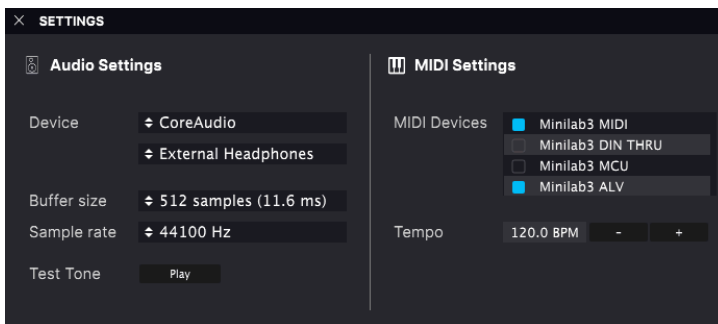
このチャプターでご紹介する内容は、MiniLab 3 で Analog Lab Intro や Analog Lab V をすぐに使用できるように設計されたデフォルト設定を前提にしています。この設定は簡単に変更でき、中でも大きなものは MIDI Control Center (MCC) でオリジナルのコントローラーマッピングを作成できることでしょう (具体的な手順は MCC のマニュアルをご覧ください)。また、マクロにアサインされるパラメーターは、プリセットによって異なりますので、マクロノブ 1-4 を操作したときに起こる音色などの変化はプリセットごとに異なります。

さらに MiniLab 3 は、他の Arturia インストゥルメントの MIDI ラーン機能でコントローラーとパラメーターのマッピングを設定する汎用 MIDI コントローラーとしても使用できます。その場合は、インストゥルメントの MIDI Settings タブを開いて "Learn" をクリックし、画面上のパラメーターを選択してから MiniLab 3 のコントロール類を操作してマッピングします。

最後になりますが、MiniLab 3 は他の MIDI コントローラーと同様、Arturia 製以外のソフトウェアやプラグインもコントロールできますが、MIDI Control Center でどのコントロール類からどの MIDI メッセージやその値を送信するかを細かく設定できる点が、MiniLab 3 を使用する大きなメリットです。

5.2. オーディオと MIDI の設定

Analog Lab を開いてから最初にすることは、Analog Lab からのオーディオが正しく出力されるように、そして MiniLab 3 からの MIDI メッセージを受信できるように設定することです。Analog Lab をスタンドアロンモードで使用する場合は、下図の MIDI Device の "Minilab3 MIDI" にチェックを入れるだけで OK です。"Minilab3 ALV" にチェックを入れる必要は特にありませんが、入れても問題ありません。



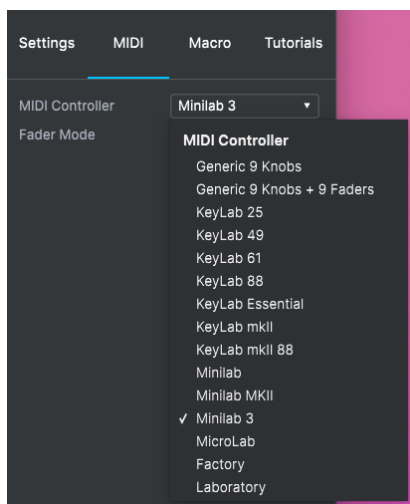
Analog Lab をスタンドアローンモードで使用するとき、メインメニューから Audio MIDI Settings を開きます。Analog Lab をプラグインモードで使用するとき、お使いの DAW の MIDI プリファレンス (またはそれに相当するページ) を開いて、MIDI インプットのリストから MiniLab 3 を選択し、Analog Lab を入れたトラックを作成して録音待機状態にします。これでお使いの DAW で Analog Lab を演奏したりコントロールすることができるようになります。

前ページの図は、Analog Lab V のスタンドアローンモードでの設定画面のスクリーンショットです。オーディオデバイスの設定はお使いのコンピュータやオーディオインターフェイス等に合わせて設定してください。ここで重要なのは、MiniLab 3 が Analog Lab や DAW の設定画面に表示される3つの MIDI ポート/デバイスです：

- **MiniLab 3 MIDI** : MiniLab 3 の USB-C ポートでの MIDI 送受信のオン/オフを切り替えます。
- **MiniLab 3 DIN Thru** : DAW などのホストアプリケーションから受信した MIDI メッセージを MiniLab 3 の5ピン MIDI アウトからそのまま出力 (スルー) します。この設定は、DAW からハードウェアシンセをコントロールするのに MiniLab 3 を MIDI インターフェイスとして使用したいときに便利です。
- **MiniLab 3 MCU** : MiniLab 3 を専用ポート経由で Mackie Control Universal (MCU) サーフェスとして使用し、ノートデータやコントロールチェンジなどの MIDI メッセージに干渉しないようにします。
- **MiniLab 3 ALV** : Analog Lab V から MiniLab 3 にスクリーンメッセージを送信します。

MiniLab 3 MIDI はほぼ常時オンで良いでしょう。MiniLab 3 をチャプター6でご紹介する[サポート DAW \[p.24\]](#) のコントローラーとして使用するとき、**MiniLab 3 MCU** を必ず オフ にしてください。

5.2.1. Analog Lab MIDI Settings



Analog Lab の画面右上にあるギアアイコン (プラグインにもスタンドアローンモードにもあります) をクリックすると各種設定を行う Settings セクションが開きます。次に MIDI タブをクリックし、**MIDI Controller** ドロップダウンメニューに *MiniLab 3* が自動検出されていないときは、メニューから MiniLab 3 を選択します。

この操作により、カスタムコントローラーマッピングのテンプレートを選択することになります。画面最下部のロワーツールバーの **Controls** が有効になると、画面下部に MiniLab 3 のコントロール類に対応したノブやフェーダーが下図のように表示されます：



この状態で **Shift** ボタンを押しながらパッド 3 を押して ARTURIA プログラムモードを選択してください。

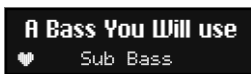
5.3. プリセットのブラウジング

MiniLab 3 を使って Analog Lab で最初に行うことの1つといえば、メインエンコーダーでプリセットをブラウズしたり選択したりすることでしょう。

メインエンコーダーを回すと、Analog Lab のプリセットブラウザ中央部のサーチ結果表示エリアに表示されているプリセットがスクロールします。メインエンコーダーを押すと、そのプリセットがロードされます。MiniLab 3 のディスプレイにはそのプリセット名とそのプリセットのタイプが表示されます：

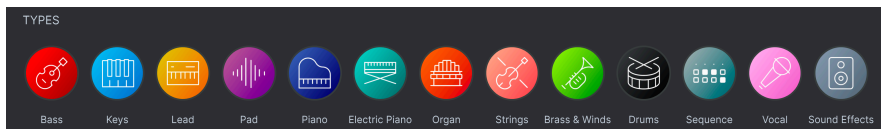


メインエンコーダーを長押しすると、その時に選択していたプリセットが Liked ("いいね") プリセットに追加されるか、すでに Liked だったプリセットの場合はそれが解除されます。"いいね" をつけた (Liked に追加された) プリセットにはハートマークが付きます。

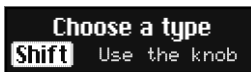


5.3.1. タイプ別にブラウジング

Analog Lab のプリセット階層の「ツリー構造」のうち、タイプ (Types) と呼ばれるプリセットカテゴリーを掘り下げていくこともできます。



Shift ボタンを押したままにすると、次のようなメッセージが表示されます：



Shift ボタンを押しながら **メインエンコーダー** (ディスプレイの下にあるノブ) を回すと、楽器のタイプをブラウズします。メインエンコーダーを押す (この時点でも **Shift** は押したままです) と、そのタイプが選択されます。タイプを選択しましたら **Shift** ボタンを **押さず** にメインエンコーダーを回して、そのタイプ内のプリセットをブラウズできます。

Note: 現時点では、タイプ別のブラウジングのみをサポートしています。スタイル (Styles) やキャラクター (Characteristics)、デザイナー (Designers) 別のブラウジングには対応しておりません。もちろん、そうしたブラウジングは Analog Lab 上ではできませんし、選択したプリセットとそのサブタイプは MiniLab 3 のディスプレイに正しく表示されます。

タイプ選択の階層に戻るには、**Shift** ボタンを押しながらメインエンコーダーを回して現在選択しているタイプの **Back** 画面 (通常は最初のアイテムです) までスクロールします：

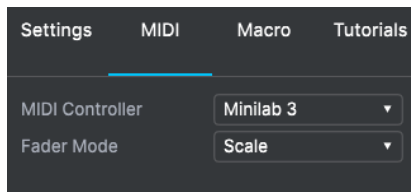


5.3.1.1. タイプやサブタイプ間の移動

- ・ タイプ間の移動：Shift ボタンを押しながらメインエンコーダーを回します。
- ・ タイプの選択：メインエンコーダーを押します。
- ・ タイプ内の全プリセットの表示：タイプの選択してからサブタイプを選択せずに Shift ボタンを放します。するとそのタイプ内の全プリセットが Analog Lab の画面にリスト表示されます。
- ・ サブタイプ間の移動：タイプを選択し、Shift ボタンを押したままメインエンコーダーを回します。この時点でサブタイプをブラウズしていることとなります。
- ・ サブタイプ内の全プリセット表示：サブタイプを選択します。これでそのサブタイプ内の全プリセットが Analog Lab の画面にリスト表示されます。
- ・ サブタイプからタイプに戻る：サブタイプの先頭にある "Back" まで左へスクロールします。"Back" をクリックする (メインエンコーダーを押す) と、タイプのブラウジングができます。"Back" をクリックすることでサブタイプやタイプの選択解除ができます (サーチバーの内容を消去する便利な方法です)。

5.4. ノブとフェーダー

MiniLab 3 を ARTURIA モード (Shift + パッド3) にし、Analog Lab の [MIDI Settings \[p.19\]](#) で MIDI コントローラーに *MiniLab 3* を選択すると、MiniLab 3 のノブとフェーダーは Analog Lab のパラメーターに対応し、ライブやレコーディングで極めてスムーズに音色変化をつけることができます。



画面右上のギアのアイコンをクリックして MIDI コントローラーに *MiniLab 3* を選択してください

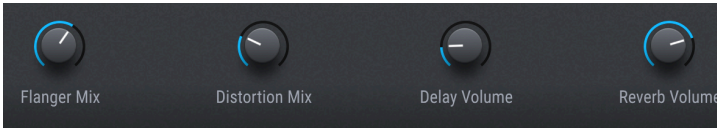
5.4.1. ノブ 1-4



ノブ 1-4 は Arturia インストゥルメントの **マクロ** にアサインされます。マクロには複数のパラメーターをアサインできますので、MiniLab 3 のノブを回すだけで多くの音色変化をつけることができます。フルバージョンの V Collection インストゥルメントをお持ちの場合はさらに、そのインストゥルメントを Analog Lab で開き、インストゥルメントのパラメーターをマクロにアサイン (マッピング) することができます。

ノブ	マクロ	対応する MIDI CC
1	Brightness	74 (フィルターカットオフフリケンシー)
2	Timbre	71 (フィルターレゾナンス)
3	Time	76 (サウンドコントロール 7)
4	Movement	77 (サウンドコントロール 8)

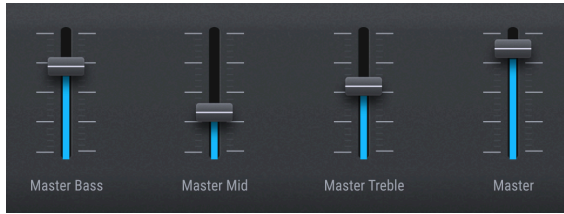
5.4.2. ノブ 5-8



ノブ 5-8 はエフェクトパラメーターにアサインされます。Analog Lab には2つのインサートエフェクトがプリセットごとにあり、それに加えてセンド/リターンのディレイとリバブがあります。

ノブ	パラメーター	対応する MIDI CC
5	FX A Dry/Wet	93 (コーラスレベル)
6	FX B Dry/Wet	18 (汎用コントローラー)
7	Delay Volume	19 (汎用コントローラー)
8	Reverb Volume	16 (汎用コントローラー)

5.4.3. フェーダー



4本のフェーダーは Analog Lab のマスターアウトプットのマスターボリュームと3バンド EQ にアサインされます。

フェーダー	パラメーター	対応する MIDI CC
1	Bass	82 (汎用コントローラー 3)
2	Midrange	83 (汎用コントローラー 4)
3	Treble	85 (未定義)
4	Master Volume	17 (汎用コントローラー)

5.4.4. パッド



Analog Lab では、MiniLab 3 のパッドからは前のチャプターでご紹介しました通り MIDI ノートを送信します。デフォルト設定のノートナンバーは次の通りです：

パッドバンク	1	2	3	4	5	6	7	8
A	36 (C2)	37 (C#2)	38 (D2)	39 (D#2)	40 (E2)	41 (F2)	42 (F#2)	43 (G2)
B	44 (G#2)	45 (A2)	46 (A#2)	47 (B2)	48 (C3)	49 (C#3)	50 (D3)	51 (D#3)

6. DAW CONTROL

MiniLab 3 は、すべての主要な DAW (デジタルオーディオワークステーション) ソフトウェアのコントロールに対応しています。MiniLab 3 に直接統合できる DAW もあれば、広く普及している Mackie Control Universal (MCU) プロトコル経由でコントロールできる DAW もあります。

DAW ごとに特有の機能はありますが、MiniLab 3 でコントロールできる機能には、トラックの選択、タイムラインのスクロール、トラックボリュームやセンド、パンの調整、プラグインのパラメーター調整のほか、パッドで録音や再生などのトランスポートもあります。


6.1. Custom Controlled DAWs - 対応 DAW

このセクションでは、MiniLab 3 に完全統合できる DAW でどんなコントロールが行えるかという、一般的な情報をご紹介します。

MiniLab 3 に完全統合できる5種類の DAW で何がコントロールできるかの詳細につきましては、MiniLab 3 に付属のクイックスタートに記載の各 DAW の項目をご覧ください。


MiniLab 3 を DAW Control モードにするには、**Shift** ボタンを押しながらパッド 3 を押すとディスプレイに "**DAW**" と表示されます。これで以下の対応 DAW を MiniLab 3 からコントロールすることができます：

- Ableton Live
- Bitwig Studio
- Apple Logic Pro
- Image-Line FL Studio
- Reason Studios Reason

 ! 解説：MiniLab 3 からは DAW のループのオン/オフ、停止、再生、録音をコントロールできます。それ以上のコントロールにも今後対応していく予定ですが、同様のことを MIDI Control Center で設定することも可能です。! パッドで DAW のトランスポートをコントロールする際には、**Shift** ボタンを押しながら操作してください。

DAW コントロールモードに入ると、MiniLab 3 は接続している DAW を自動認識します。お使いの DAW が認識されないときは、DAW の MIDI 設定をチェックしたり、DAW を最新バージョンにアップデートしてください。

それでも MiniLab 3 が DAW を認識しないときは、お使いの DAW のマニュアルのインストール関係やトラブルシューティングの項目をご覧ください。

 ! 対応 DAW をコントロールするときは、お使いの DAW の MIDI 設定で *MiniLab 3* MCU MIDI ポートを必ずオフにしてください。そうすることで、カスタム DAW モードと MCU プロトコルとのコンフリクトを防ぐことができます。! ホールドやコードモード、アルペジエーター、トランスポーズなど MiniLab 3 のその他の機能はもちろん、あらゆる DAW で使用できます。

6.1.1. トランスポートコントロール



Shift ボタンを押しながらパッド 4-8 を押すと DAW のトランスポートをコントロールできます。これは対応 DAW すべてに共通した機能です。

パッド	機能	ディスプレイの表示
4	ループモード オン/オフ	Loop Mode ON/OFF
5	停止	再生アイコンが左下に表示されます
6	再生/一時停止	左下から再生アイコンが消えます
7	録音	左上に録音アイコンが表示されます
8	タップテンポ	このパッドをタップすると <i>Tap Tempo XX BPM</i> が表示されます ("XX" は数値)

上記の機能を実行すると、上の写真のようにそれに対応したパッドがさらに明るく点灯します。

上記の機能に加えて、現在サポートしている5種類の DAW に固有の機能も数多くあります。詳細につきましては、Arturia ウェブサイトの [FAQ セクション](#) をご覧ください。

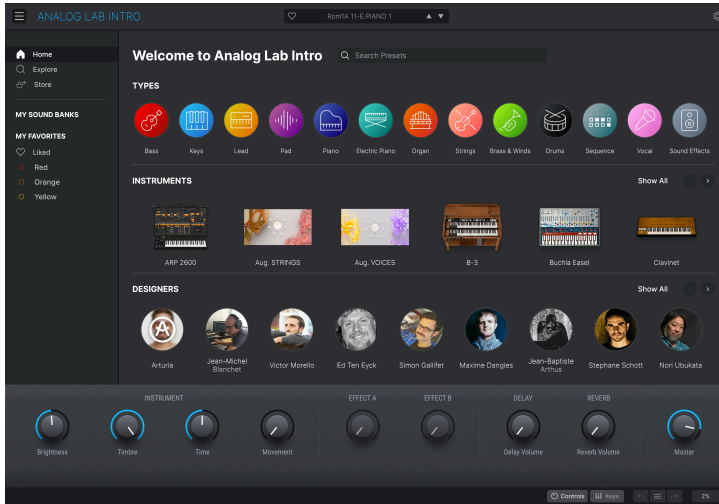
6.2. Mackie Control Universal で DAW をコントロールする

MiniLab 3 の発売時点でカスタムスクリプトがない DAW (Steinberg Cubase など) は、Mackie Control Universal (MCU) プロトコルを使ってコントロールすることができます。このプロトコルは、元々は Mackie 社が開発したフィジカルコントローラーで採用していたものです。

MCU の設定は DAW によって異なりますので、詳細はお使いの DAW のマニュアル等をご覧ください。ですが一般的には、次のような手順になるかと思います：

- DAW の MIDI 設定で MIDI 入力ポートに *MiniLab 3 MCU* をオンにします。
- お使いの DAW の「コントロールサーフェス」設定がある場合は、そこで Mackie Control を追加設定します。

6.3. Analog Lab モード



ほぼすべての DAW は、Analog Lab V や MiniLab 3 に付属の Analog Lab Intro など、サードパーティ製のプラグインインストゥルメントを使用できます。つまり、お使いの DAW 上で Analog Lab を MiniLab 3 からコントロールすることができます (DAW 自体のコントロールは同時に行えません)。

DAW のトラックに Analog Lab を立ち上げ、そのトラックを選択してから **Shift** ボタンを押しながらパッド 3 を押すと、ディスプレイには "Analog Lab" (お使いの Analog Lab によって "V" か "Intro" が後ろに付きます) が表示されます。この時点で MiniLab 3 は Analog Lab をコントロールするためのモードに入り、[CHAPTER 5 \[p.18\]](#) でご紹介しましたすべての操作が行えるようになります。

7. 規制関連情報

FCC 規制情報 (USA)

重要な注意：本製品を改造しないでください。

本製品は、本マニュアルに記載の条件を満たした場合にのみ、FCC 規則に準拠します。本製品の使用に際して、FCC 規則に反する改造または変更を本製品に行うことは、Arturia 社および輸入代理店は一切承認いたしません。

重要：本製品をアクセサリ等関連製品やその他の機器に接続する場合は、高品質のシールドケーブルをご使用ください。また、本製品にケーブル類が付属している場合は、その用途に於いて必ずそれをご使用ください。本製品の設置は、ユーザー・マニュアル等に記載されている内容に従って行ってください。それ以外の方法等で本製品をアメリカ合衆国内で使用する場合は、使用者の権限が無効になる場合があります。

注意：本製品は、FCC 規則第15章に従ってクラスBデジタル機器の規制値に適合していることが試験により確認されています。この各種規制値は、本製品を一般家庭で使用する際に生じる有害な障害に対して合理的な保護となるよう策定されています。本製品は、無線周波数帯域のエネルギーを発生し、使用し、放射することがあります。また、本製品のユーザーズ・マニュアルに従わずに本製品を設置した場合は、他の電子機器に有害な干渉を及ぼす原因となる場合があります。本製品の電源をオンにしたりオフにしたりすることで、本製品がそのような有害な干渉を及ぼす原因であると確認された場合は、次の対処法を行ってください：

- 本製品または干渉の影響を受けている機器の設置位置を変更する。
- 本製品と干渉の影響を受けている機器のコンセントを別の系統に分ける、またはACラインフィルターを使用する。
- ラジオやテレビが干渉を受けている場合は、それらの位置やアンテナの向きを変更する。アンテナの引込み線が300Ωのリボンフィーダー線だった場合は、引込み線を同軸ケーブルに変更する。
- これらの対処法が効果的でなかった場合は、本製品を購入された販売店やメーカーまたは輸入代理店にご相談ください。

なお、上記の記載内容は、アメリカ合衆国にディストリビュートされた製品にのみ適用されます。

カナダ

注意：本製品はカナダ国内の干渉機器基準で要求されるすべての規制に適合したクラスBデジタル機器です。

AVIS: Cet appareil numérique de la classe B respecte toutes les exigences du Règlement sur le matériel brouilleur du Canada.

ヨーロッパ



本製品は、指令 2014/30/EU の要求基準に適合しています。

本製品が静電気放電の影響により適切に動作しない場合は、本製品の電源を入れ直してください。

8. ソフトウェア・ライセンス契約

ライセンス料（お客様が支払ったアートリア製品代金の一部）により、アートリア社はライセンサーとしてお客様（被ライセンス）に MiniLab 3 ファームウェアのコピー（以下ソフトウェア）を使用する非独占的な権利を付与いたします。

ソフトウェアのすべての知的所有権は、アートリア社（以下アートリア）に帰属します。アートリアは、本契約に示す契約の条件に従ってソフトウェアをコピー、ダウンロード、インストールをし、使用することを許諾します。

本製品は不正コピーからの保護を目的としプロダクト・アクティベーションを含みます。OEM ソフトウェアの使用はレジストレーション完了後のみ可能となります。

インターネット接続は、アクティベーション・プロセスの間に必要となります。ソフトウェアのエンドユーザーによる使用の契約条件は下記の通りとなります。ソフトウェアをコンピューター上にインストールすることによってこれらの条件に同意したものとみなします。慎重に以下の各条項をお読みください。これらの条件を承認できない場合にはソフトウェアのインストールを行わないでください。この場合、本製品（すべての書類、ハードウェアを含む破損していないパッケージ）を、購入日から30日以内にご購入いただいた販売店へ返品して払い戻しを受けてください。

1. ソフトウェアの所有権 お客様はソフトウェアが記録またはインストールされた媒体の所有権を有します。アートリアはディスクに記録されたソフトウェアならびに複製に伴って存在するいかなるメディア及び形式で記録されるソフトウェアのすべての所有権を有します。この許諾契約ではオリジナルのソフトウェアそのものを販売するものではありません。

2. 譲渡の制限 お客様はソフトウェアを譲渡、レンタル、リース、転売、サブライセンス、貸与などの行為を、アートリアへの書面による許諾無しに行うことは出来ません。また、譲渡等によってソフトウェアを取得した場合も、この契約の条件と権限に従うこととなります。本ソフトウェアをネットワーク上で使用することは、同時期に複数のプログラムが使用される可能性がある場合、違法となります。お客様は、本ソフトウェアのバックアップコピーを作成する権利がありますが、保存目的以外に使用することはできません。本契約で指定され、制限された権限以外のソフトウェアの使用にかかる権利や興味を持たないものとします。アートリアは、ソフトウェアの使用に関して全ての権利を与えていないものとします。

3. ソフトウェアのアクティベーション アートリアは、ソフトウェアの違法コピーからソフトウェアを保護するためのライセンス・コントロールとして OEM ソフトウェアによる強制アクティベーションと強制レジストレーションを使用する場合があります。本契約の条項、条件に同意しない限りソフトウェアは動作しません。このような場合には、ソフトウェアを含む製品は、正当な理由があれば、購入後30日以内であれば返金される場合があります。本条項11に関連する主張は適用されません。

4. 製品登録後のサポート、アップグレード、レジストレーション、アップデート 製品登録後は、以下のサポート・アップグレード、アップデートを受けることができます。新バージョン発表後1年間は、新バージョンおよび前バージョンのみサポートを提供します。アートリアは、サポート（ホットライン、ウェブでのフォーラムなど）の体制や方法をアップデート、アップグレードのためにいつでも変更し、部分的、または完全に改正することができます。製品登録は、アクティベーション・プロセス中、または後にインターネットを介していつでも行うことができます。このプロセスにおいて、上記の指定された目的のために個人データの保管、及び使用（氏名、住所、メール・アドレス、ライセンス・データなど）に同意するよう求められます。アートリアは、サポートの目的、アップグレードの検証のために特定の代理店、またはこれらの従事する第三者にこれらのデータを転送する場合があります。

5. 使用の制限 ソフトウェアは通常、数種類のファイルでソフトウェアの全機能が動作する構成になっています。ソフトウェアは単体で使用できる場合もあります。また、複数のファイル等で構成されている場合、必ずしもそのすべてを使用したりインストールしたりする必要はありません。お客様は、ソフトウェアおよびその付随物を何らかの方法で改ざんすることはできません。また、その結果として新たな製品とすることもできません。再配布や転売を目的としてソフトウェアそのものおよびその構成を改ざんすることはできません。

6. 権利の譲渡と著作権 お客様は、本ソフトウェアを使用するすべての権利を他の人に譲渡することができます。以下の条件を満たすことを条件とします。(a) お客様は、他の人に以下を譲渡します。(i) 本契約および(ii) 本ソフトウェアとともに提供され、同梱され、またはプリインストールされたソフトウェアまたはハードウェア、本ソフトウェアに関するアップデートまたはアップグレードの権利を付与したすべてのコピー、アップグレード、アップデート、バックアップコピーおよび旧バージョンを含む。(b) お客様が本ソフトウェアのアップグレード、アップデート、バックアップコピーおよび旧バージョンを保持していないこと。(c) 受領者が本契約の条件に同意していること。(c) 受領者が、本契約の条件およびお客様が有効なソフトウェアライセンスを取得した際のその他の規定を受け入れること。ソフトウェアライセンス本契約の条件に同意されなかったことによる製品の返品。本契約の条件に同意しなかったことによる製品の返却(製品のアクティベーションなど)は、権利譲渡後にはできません。権利を譲渡した場合、製品の返却はできません。また、ソフトウェア及びマニュアル、パッケージなどの付随物には著作権があります。ソフトウェアの改ざん、統合、合併などを含む不正な複製と、付随物の複製は固く禁じます。このような不法複製がもたらす著作権侵害等のすべての責任は、お客様が負うものとします。

7. アップグレードとアップデート ソフトウェアのアップグレード、およびアップデートを行う場合、当該ソフトウェアの旧バージョンまたは下位バージョンの有効なライセンスを所有している必要があります。第三者にこのソフトウェアの前バージョンや下位バージョンを譲渡した場合、ソフトウェアのアップグレード、アップデートを行う権利を失効するものとします。アップグレードおよび最新版の取得は、ソフトウェアの新たな権利を授けるものではありません。前バージョンおよび下位バージョンのサポートの権利は、最新版のインストールを行った時点で失効するものとします。

8. 限定保証 アートリアは通常の使用下において、購入日より30日間、ソフトウェアが記録されたディスクに瑕疵がないことを保証します。購入日については、領収書の日付をもって購入日の証明といたします。ソフトウェアのすべての黙示保証についても、購入日より30日間に制限されます。黙示の保証の存続期間に関する制限が認められない地域においては、上記の制限事項が適用されない場合があります。アートリアは、すべてのプログラムおよび付随物が述べる内容について、いかなる場合も保証しません。プログラムの性能、品質によるすべての危険性はお客様のみが負担します。プログラムに瑕疵があると判明した場合、お客様が、すべてのサービス、修理または修正に要する全費用を負担します。

9. 賠償 アートリアが提供する補償はアートリアの選択により (a) 購入代金の返金 (b) ディスクの交換のいずれかになります。お客様がこの補償を受けるためには、アートリアにソフトウェア購入時の領収書をそえて商品を返却するものとします。この補償はソフトウェアの悪用、改ざん、誤用または事故に起因する場合には無効となります。交換されたソフトウェアの補償期間は、最初のソフトウェアの補償期間が30日間のどちらか長いほうになります。

10. その他の保証の免責 上記の保証はその他すべての保証に代わるもので、黙示の保証および商品性、特定の目的についての適合性を含み、これに限られません。アートリアまたは販売代理店等の代表者またはスタッフによる、口頭もしくは書面による情報または助言の一切は、あらたな保証を行なったり、保証の範囲を広げるものではありません。

11. 付随する損害賠償の制限 アートリアは、この商品の使用または使用不可に起因する直接的および間接的な損害(業務の中断、損失、その他の商業的損害なども含む)について、アートリアが当該損害を示唆していた場合においても、一切の責任を負いません。地域により、黙示保証期間の限定、間接的または付随的損害に対する責任の排除について認めていない場合があります、上記の限定保証が適用されない場合があります。本限定保証は、お客様に特別な法的権利を付与するものですが、地域によりその他の権利も行使することができます。